



UNIC Tokyo Dateline UN

June/July 2013 Vol.83

国際連合広報センター



©UN Photo/Rick Bajomas

パン 事務総長、TICAD V (横浜) に出席

潘基文（パン・ギムン）国連事務総長が2013年5月31日から6月3日にかけて、日本を公式訪問しました。通算7度目となる今回の訪日の主な目的は、横浜市で開催された「第5回アフリカ開発会議（TICAD V）」への出席です。

アフリカの開発をテーマとする TICAD は、日本政府が主導し、国連、国連開発計画（UNDP）、アフリカ連合委員会（AUC）および世界銀行と共同で開催されている国際会議です。1993年の第1回会議以降、5年に1度の首脳級会合が開かれており、潘事務総長が出席するのは今回が初めてとなりました。「躍動のアフリカと手を携えて」を全体テーマとする今会議には、アフリカ51カ国、35カ国の開発パートナー諸国およびアジア諸国、74の国際機関および地域機関の代表並びに民間セクターやNGOなど市民社会の代表ら、約4,500名以上が参加し、前回は上回る規模の国際会議となりました。

前夜遅くに成田空港に到着した潘事務総長は6月1日（土）、TICAD Vのオープニングにてスピーチを行い、アフリカが「ミレニアム開発目標（MDGs）の達成に向け、大きな前進を遂げている」一方で、「依然として、何百万もの人々が仕事、ヘルスケア、そして食料の不足に苦しんでいる」と述べました。そして、「恒久的な解決策を見つけるためには、平和、安全、そして開発を結びつけることに取り組みねばならない」として、経済、社会、環境を三本柱とするアフリカ支援を呼びかけました。

ウェブサイトでは事務総長のスピーチ、会談の要旨なども掲載しています。

<http://www.unic.or.jp/unic/highlight/3053/>

INSIDE

- 潘基文（パン・ギムン）事務総長が TICAD V（横浜）に出席 P2-3
- ポスト2015年開発アジェンダ：ハイレベル・パネルの提言 P4-5
- ミレニアム開発目標報告2013を発表 P6
- 国連、シリア紛争に関し、史上最大規模の人道援助アピールを発表 P7
- 国連だより：UNAI九州大学編 P8

<http://www.unic.or.jp/>

この後、事務総長は TICAD 共催団体の一つである世界銀行グループのジム・ヨン・キム総裁、およびコートジボワールのウワタラ大統領、マリのトラオレ暫定大統領と個別会談を行った後、岸田文雄外務大臣と会談を行いました。事務総長は、TICAD 会議の開催とアフリカにおける MDGs 達成に向けた日本の貢献に感謝を伝えたほか、人間の安全保障、平和維持、平和構築をはじめ、多くの分野で先導的な役割を果たしていることを高く評価すると述べました。このほか、シリア情勢、朝鮮半島情勢などについても意見交換を行いました。

続いて、事務総長一行は日本にある国連諸機関の代表とランチ・ミーティングを行いました。国連大学のデイビット・マローン学長が主催したミーティングには、福岡や大阪など遠方からの参加者も含めて 20 名近くが集まり、日本における国連の諸活動や国連に対する人々の関心や期待について意見交換がなされました。

この日の午後、事務総長はアフリカ各国の首脳級らとの会談を精力的に続け、チュニジアのマルズーキ大統領、エジプトのカンディール首相、ベニンのヤギ大統領、そしてアフリカ連合委員会（AUC）のズマ委員長ほかと意見交換を行いました。また、同夜には「第 2 回野口英世アフリカ賞授賞式・記念晩餐会」に潘淳沢夫人を伴って出席。同賞は、アフリカでの感染症などの疾病対策のため、医学研究・医療活動の両分野において顕著な功績を上げ、保健と福祉の向上に貢献した人を称える賞です。第 2 回目の受賞者は、国連合同エイズ計画（UNAIDS）の前事務局長で、現在、ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院学長を務めるピーター・ピオット博士、そして、マケレレ大学感染症研究所所長のアレックス・G・コウティエニョ博士の二人でした。

翌 2 日（日）、潘事務総長の一日は、安倍晋三総理大臣との会談でスタートしました。事務総長は、国連における日本の積極的な役割に深い感謝の意を表しつつ、国連改革やポスト 2015 年開発アジェンダに関しても、日本が強力なリーダーシップを発揮する必要性を強調しました。また、国連南スーダン共和国ミッション（UNMISS）など、日本の国連平和維持活動（PKO）への参加を含め、平和と安全の問題に対する積極的な関与に謝意を表しました。

TICAD 第 2 日目の午前には、5 つのテーマ別会合が並行して行われ、事務総長はまずテーマ別会合 3「ポスト MDGs に向けて」に議長として出席しました。冒頭の挨拶の中で事務総長は、「MDGs を引き継ぐ枠組みづくりのプロセスは、私たちの国際的な開発に対する考え方を変わる機会になる」とし、「MDGs の強みをさらに広げ、地球を守りながら人々のエンパワーメントを図る」ことが目標であると述べました。そして、会合出席者に対し、より持続可能な未来に向けた基盤の整備と一緒に取り組んでほしいと呼び掛けました。

続いてテーマ別会合 1「開発の原動力としての民間セクター、貿易と投資」に出席した事務総長は、「大きな潜在能力を秘めたアフリカだが、依然として貧困、失業、そして政情不安と闘っている人々には手を差し伸べなければならない」と述べました。そして、「企業は食料やエネルギー、必須サービスに対するアクセスの改善とディーセント・ワークの提供に貢献できる」と



第 5 回目となるアフリカ開発会議（TICAD）。今会合の全体テーマは「躍動のアフリカと手を携えて」
© UN Photo/Richard Bajornas（以下同）



全体会合で開会挨拶を行う潘基文事務総長（6月1日）



岸田文雄外務大臣と会談（6月1日）



日本にある国連諸機関の代表とランチ・ミーティングを行い、日本画をバックに笑顔を見せる事務総長（6月1日）



安倍晋三総理大臣と会談（6月2日）

呼びかけ、民間セクター、貿易、そして投資がもつ「変革の力」をさらに活用することで課題に取り組めると強調しました。

その後、ソマリアのモハムッド大統領と会談を行った事務総長は、世界銀行、国連開発計画（UNDP）、日本政府が共催する「ハイレベル・パネル・セッション：アフリカの開発－災害と気候変動に対して強靱な社会を目指して」に出席しました。

アフリカは、将来の世界の成長センターと期待されるものの、もともと自然災害に弱く、その危険に常にさらされているのが現状です。今後、気候変動要因が進むとともに、各地で急速に進む経済成長と都市化の影響によって潜在的な災害リスクは一層大きくなると考えられ、また、環境破壊や資源の枯渇などの悪影響を避ける対策も重大な課題となります。こうしたことから、TICAD Vで議論が行われ、出席した国際社会のリーダーたちは「災害と気候変動に強い社会の構築は、アフリカの開発の成果を守るだけでなく、同大陸で弱者に配慮した成長をさらに加速させるために必要」との意見の一致を見ました。

続いて事務総長は TICAD 全体会合 4 「平和と安定」に出席。サヘル地域やマリなど、アフリカの平和と安定に関する喫緊の課題についての議論に加わりました。事務総長は「アフリカでの紛争は過去に比べて減少しているが、新たな脅威が生まれつつある」とし、越境犯罪や海賊・テロ行為、過激派の活動の活発化を挙げました。そして「アフリカ全土で平和の礎としての開発を進めなければならない」と述べて、国際社会の積極的な関与を求めました。

事務総長はこの日もアフリカ各国の首脳級らとの会談を精力的に続け、南スーダンのサルバキール大統領、モーリシャスのランゲラム首相、ボツワナのカーマ大統領ほかと意見交換を行いました。

ところで、今回の訪日に同行した潘淳沢・事務総長夫人は、TICAD に出席するアフリカ各国首席代表の配偶者を対象とした 2 日間のプログラムに参加しました。これは安倍昭恵総理夫人の主催によるもので、潘夫人は国際シンポジウム「エイズを考える：アフリカと日本の共通課題」でスピーチを行い、「地産地消」をめざした横浜農業の取り組みを視察。また、書道やかんざし作りなど伝統文化の体験行事を通じて日本への理解を深めると共に、アフリカ各国首脳夫人らとの交流を深めました。1 日（土）には安倍総理夫人との個別会談も行うなど、様々な形で事務総長へのサポートに努めました。

事務総長は 2 日夜、ロールバック・マラリア・パートナーシップと世界エイズ・結核・マラリア対策基金（世界基金）が共催する「マラリアと開発課題に関するレセプション」に出席。リベリアのエレン・ジョンソン・サーリーフ大統領らと共に、マラリア対策への支援を訴えました。その後、安倍総理が主催する TICAD 公式晩餐会に出席し、一連の訪日プログラムを締めくくりました。翌 3 日（月）午前、事務総長は成田空港から一路、国連本部のあるニューヨークに向けて旅立ちました。



テーマ別会合 3 「ポスト MDGs に向けて」に議長として出席。ポスト 2015 年枠組みの中で、アフリカの関心事項に取り組むよう必要性を訴えた（6月2日）



「ハイレベル・パネル・セッション：アフリカの開発－災害と気候変動に対して強靱な社会を目指して」は、TICAD V の全共催者、安倍総理、岸田外相らが出席する大きなイベントとなった（6月2日）



TICAD 配偶者プログラムに参加する潘淳沢・事務総長夫人（左から 3 人目）。横浜野菜の視察や伝統文化体験などが盛り込まれた 2 日間のプログラムは、安倍昭恵・総理夫人（同 2 人目）が主催して行われた（6月2日） © 外務省



「マラリアと開発課題に関するレセプション」に出席、マラリア対策へのさらなる支援を呼びかける事務総長（6月2日）

ウェブサイトでは事務総長のスピーチ、会談の要旨なども掲載しています。

<http://www.unic.or.jp/unic/highlight/3053/>

ポスト 2015 年開発アジェンダ：ハイレベル・パネルの提言

持続可能な開発による貧困根絶と経済変革に向け、 全世界の有識者が新たなグローバル・パートナーシップを要求

「ポスト 2015 年開発アジェンダに関するハイレベル・パネル」は 2013 年 5 月 30 日、報告書『新たなグローバル・パートナーシップ：持続可能な開発を通じ、貧困の根絶と経済の変革を（A New Global Partnership: Eradicate Poverty and Transform Economies through Sustainable Development）』を発表しました。2030 年までに地球上から極度の貧困を一掃し、持続可能な開発という約束を果たすための普遍的な課題を定める内容となっています。報告書は全世界に対し、世界中の一人ひとりに希望と役割を与える新たなグローバル・パートナーシップの下に結集するよう呼びかけています。

「ポスト 2015 年開発アジェンダに関するハイレベル・パネル」は潘基文（パン・ギムン）国連事務総長【写真・右】が設置したもので、インドネシアのスシロ・バンバン・ユドヨノ大統領【同左】、リベリアのエレン・ジョンソン＝サーリーフ大統領、英国のデービッド・キャメロン首相が共同議長を務めています。



©UN Photo/Mark Garten

ユドヨノ大統領は発表にあたり、「この報告の優れているところは、できる限り多くの方面からの意見を把握していることに加え、パネリストも共同議長もそれぞれの国益を乗り越え、真に普遍的な観点からグローバル・パートナーシップと持続可能な開発の問題に取り組むことができたという点にあります」と述べました。

サーリーフ大統領は、次のように語っています。「このハイレベル・パネル報告書は、政府、市民社会、学識者、民間部門の見解を取り入れた 9 カ月間にわたる集中的なグローバル協議の産物です。我々はともに、幅広い関係者と協議しながら、持続不可能な経済成長、紛争、気候変動といった、21 世紀の諸課題について検討しただけでなく、現代的なテクノロジーや革新的な連携などの機会も明らかにしました。この報告書

は、人間開発に対する障害に立ち向かい、新しい機会を活用する手段を備えた世界を実現するための斬新なビジョンを定めるものです。報告書がポスト 2015 年開発アジェンダに関するグローバルな話し合いに大きく貢献できること、そして、私たちが明らかにした原則や変革が、継続的な対話の枠組みづくりに役立つことを期待しています」

また、キャメロン首相は次のように述べました。「この報告書は、2030 年までに極度の貧困を根絶するためのロードマップをはっきり定めています。現在のミレニアム開発目標 (MDGs) に関する作業を完結し、貧困の根本的原因に取り組み、持続可能な開発を擁護していくためには、新しいグローバル・パートナーシップが必要です」

◆ ロードマップ ◆

ハイレベル・パネルは報告書の中で、5 つの大変革を推進するため、新たなポスト 2015 年目標の設定を求めています。

- ・ **落後者を出さない。** 私たちは 2015 年以降、単に極度の貧困を削減することから、そのあらゆる形態に終止符を打つことへと軸足を移すべきです。民族、ジェンダー、地域、障害の有無、人種、その他の身分に関係なく、誰もが基本的な経済的機会と人権を拒絶されないようにすべきです。

- ・ **持続可能な開発を中心に据える。** 私たちは、持続可能性の社会面、経済面、環境面を統合しなければなりません。私たちは今すぐ、人類に未曾有の脅威を及ぼしている気候変動と環境破壊の恐ろしいペースを和らげるよう、行動を起こさねばならないのです。

- ・ **雇用と包摂的な成長に向け、経済を変容させる。** 経済を根本的に変容させれば、変革や技術、企業の潜在力を活用することにより、極度の貧困に終止符を打ち、生活を改善させることが可能になりま



©UN Photo/Devra Berkowitz

す。経済をさらに多様化し、すべての人が平等な機会を得られるようにすれば、特に若者の社会的包摂が進み、持続可能な消費や生産のパターンも育成できるでしょう。

・平和と、すべての人にとって実効的で開かれた責任ある制度を構築する。紛争や暴力からの自由は、人間にとって最も基本的な権利であり、また、平和で豊かな社会を築くうえで欠かせない基盤でもあります。同時に、全世界の人々は、そのニーズに応じてくれる、誠実に責任ある政府を望んでいます。私たちは、平和とよいガバナンスを贅沢なおまけではなく、幸せの中心的要素として認識するという、根本的な意識変革を求めます。

・新たなグローバル・パートナーシップを作り上げる。新しい連帯、協力、相互責任の精神で、ポスト2015年アジェンダを支えなければなりません。この新たなパートナーシップは、私たちが共有する人間性に対する共通の理解と、相互尊重、相互利益に基づくものとすべきです。また、貧困や疎外に苦しむ人々、女性、若者、高齢者、障害者、先住者をはじめ、人間を

その中心に据えるべきです。さらに、市民団体、多国間機関、政府や地方自治体、科学者や学識者、企業、民間慈善団体もこれに含まれるべきです。

報告書全文とパネルに関するさらに詳しい情報は、以下をご覧ください。

<http://www.post2015hlp.org>

◆ プロセス ◆

この報告書は、MDGsの歴史的な前進を踏まえて作成されたものです。また、ハイレベル・パネルの全世界の人々との協議で表明された驚くべき熱意と多様な意見も反映しています。ハイレベル・パネルは提言の作成にあたり、121カ国の5,000を超える市民団体と話し合いました。

報告書は、MDGsが2015年に達成期限を迎えることを受け、その後の開発アジェンダを策定するために国連が実施中の協議プロセスで用いる資料として、事務総長に提出されたものです。事務総長は2013年9月、世界の次なる開発アジェンダに関する自らのビジョンを国連加盟国に提示する予定です。

ハイレベル・パネルのメンバー

スシロ・バンバン・ユドヨノ氏
インドネシア大統領、共同議長

エレン・ジョンソン＝サーリーフ氏
ベリア大統領、共同議長

デービッド・キャメロン氏
英首相、共同議長

ラーニア・アル＝アブドラー王妃
(ヨルダン・ハシェミット王国)

ヒセラ・アロンソ氏 (キューバ)

フルベール・アムスガ＝ジェロ氏
(ベナン)

アビジット・バネルジェ氏 (インド)

グニツラ・カールソン氏
(スウェーデン)

パトリア・エスピノサ氏 (メキシコ)

マリア・アンヘラ・ホルギン氏
(コロンビア)

菅直人氏 (日本)

タワックル・カルマン氏 (イエメン)

キム・スンホワン氏 (韓国)

ホルスト・ケーラー氏 (ドイツ)

グラサ・マシエル氏 (モザンビーク)

ベティ・メイナ氏 (ケニア)

エルヴィラ・ナビウリナ氏 (ロシア)

ンゴジ・オコンジョ＝イウェアラ氏
(ナイジェリア)

アンドリス・ピエバルクス氏
(ラトビア)

エミリア・ピレス氏 (東ティモール)

ジョン・ポDESTA氏 (米国)

ポール・ポルマン氏 (オランダ)

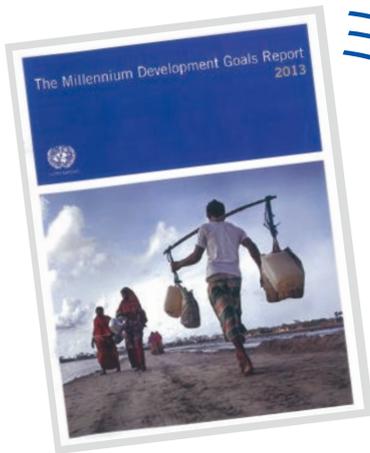
ジャン＝ミシェル・セヴェリノ氏
(フランス)

イザベラ・ティシエイラ氏 (ブラジル)

カディル・トプバス氏 (トルコ)

ワン・インファン氏 (中国)

アミナ・J・モハメド氏、(職権により)



ミレニアム開発目標報告 2013、発表

ミレニアム開発目標（MDGs）の年次報告書が2013年7月1日に発表されました。MDGsの一部がすでに達成される中で、2015年までにさらに多くの目標が達成可能な一方、他の目標達成に向けた課題への取り組みも急務となっています。

国連広報センターが7月3日に開催した東京での発表会のハイライトをご紹介します。国連本部が発表したプレスリリースから、達成の見通しが危ぶまれる分野や懸念される「格差」の問題について取り上げます。

東京での発表会では、本報告書のチーフ・エディターを務めた大崎敬子国連統計部副部長（人口社会統計担当）がブリーファーを務めました。発表は言語別に日英それぞれのセッションで実施され、外交官、学者、学生、市民社会グループ、ビジネスから合わせて約140名が参加。達成期限である2015年まで残すところ約2年半となったMDGsの進捗状況についての報告に熱心に耳を傾けました。

大崎氏によると、MDGsの中にはすでに達成した、もしくは達成が見込まれる目標がある一方、達成の見通しが立っていない目標もあります。例えば、極度の貧困状態で暮らしている人の数やスラム街の居住者数は大きく減少し、すでに目標を達成しています。しかし、「環境の持続可能性の確立や幼児死亡率の改善にはさらなる努力が必要」と大崎氏は訴えました。このほか、居住地区、経済状況、性別などに起因する「格差」も深刻な問題となっていることが報告されました。

質疑応答のセッションでは、参加者から質問が相次ぎました。特に、MDGsの期限である2015年以降の新たな開発アジェンダの設定や、その項目や期間についての質問が目立ちました。また、MDGsに関しては、目標達成のみを目指すのではなく、その「質」も追及すべきだという意見も聞かれました。大崎氏は質疑に応じる中で、国連や各国政府のみならずビジネスやNGOを含む幅広い支援があって初めて目標は達成されることを強調しました。

大崎氏による解説と活発な意見交換を通して、多くの参加者が今後の2年半を有効に活用することの重要性を再認識する貴重な機会となりました。

行動の加速が必要

世界的に、5歳未満の幼児死亡率は、1990年の出生千人当たり87人から、2011年には51人へと41%減少しました。1日当たりの幼児死亡者数は1万4,000人減ったことになります。幼児の死亡は、最貧地域の生後1カ月以内の乳児にますます集中する傾向にあります。

全世界の妊産婦死亡率は、1990年の出生10万人当たり400人から、2010年の210人へと、この20年間で47%低下しました。報告書によると、4分の3の削減というMDGs目標を達成するためには、加速度的な介入の拡大と、女性と子どもに対する政治的支援の強化が必要となります。

2000年から2011年にかけて、学校に通えない子どもの数は1億200万人から5,700万人へとほぼ半減しましたが、報告書によると、依然としてあまりにも多くの子どもたちが、初等教育を受ける権利を奪われています。1990年から2011年にかけて、19億人が公衆便所、水洗トイレその他の改良衛生施設を利用できるようになりましたが、今でも25億人が改良衛生施設を利用できていません。報告書はまた、世界で気候変動の影響が現れる中で、森林、生物種、漁業資源の損失が続き、地球の資源基盤に深刻な劣化が見られることも指摘しています。

進展に格差

世界は格差を注視する必要がある、と報告書は提言しています。地域や国々の間だけでなく、国内の各層の間でも、MDGs達成に向けた進展に格差が見られるからです。貧困層や農村部の住民は依然として、不当に不利な状況に置かれています。2011年、農村部での出産に熟練医療従事者が付き添った割合は、53%にすぎませんでした。都市部ではこれが84%に上っています。改良飲料水源を利用できない人々の83%は、農村コミュニティで暮らしています。

全文は http://www.unic.or.jp/unic/press_release/3073

国連、シリア紛争に関し、 史上最大規模の人道援助アピールを発表



©UN Photo/Violaine Martin

国連は2013年6月7日、シリア危機の影響を受ける人々が増大していることを受け、44億ドルという国連史上最大規模の援助要請を発表しました。2年前、平和的なデモに始まったシリア紛争はそれ以来、流血の事態へと発展しています。全文は <http://www.un.org/ja/press/2013/06/20130607>



©UN Photo/Mark Garten

「もう二度と繰り返したくないと思っていましたが、私たちはきょう、2013年全体につき、さらに44億ドルの拠出をお願いしなければならなくなりました」ヴァレリー・エイモス人道問題担当事務次長【写真・左上】は、ジュネーブで他の国連高官とともに共同記者会見に臨み、このように語りました。

「この金額は、アフガニスタンからソマリアに至るまで16カ国を対象に私たちが発したアピールをすべて足した額の半分以上に相当します」

今回のアピールは、1月の15億ドルから上方修正されたもので、「シリア人道支援対応計画（SHARP）」と「地域対応計画（RRP）」に関する救援活動を対象としています。

44億ドルのうち14億ドルは、SHARPによる国内のシリア人に対する援助に向けられ、残りの30億ドルは、RRPによる隣接地域の難民に対する救命援助と保護の提供に充当されます。現在までに12億ドルの拠出が得られています。

これに加えて、レバノン、ヨルダン両国政府は、自国内に逃れてきた難民への教育、保健その他のサービス提供を支援するため、それぞれ4億5,000万ドルと3億8,000万ドルの拠出を募っているところです。

「私たちは現時点で、680万人が緊急に支援を必要としていると見ています。つまり、シリア国民の3人に1人に緊急人道援助が必要だということです」エイモス氏はこう語るとともに、1月から4月にかけて、シリアの国内避難民が倍以上に増えていると付け加えました。

2011年3月以来、シリア政府と、バシヤー・アル＝アサド大統領の退陣を求める反政府組織との戦闘で、8万人以上が死亡しています。また、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）は、シリア国民およそ160万人が紛争を避けるために祖国を脱出したという推計を示すとともに、その数がまだ急増を続けていると指摘しています。

「年末までに、難民の数は350万人に及びかねないと見えています」アントニオ・グテーレス難民高等弁務官は記者団にこう語ります。「拠出を要請している資金は、シリアの被災者の生存にとっても、難民を受け入れている近隣国にとっても、欠かすことのできない資金なのです」

また、シリアからの難民の半数以上が子どもであるという事実を強調するとともに、中程度から重度の栄養不良の兆候を示し始めている子どもも多いと指摘しました。

拠出要請額には、世界食糧計画（WFP）がシリア内外での食料配給規模を拡大するための資金10億ドルが含まれています。WFPは現在、シリア国外の80万人に加え、国内の250万人にも食料を配給しています。追加の資金が得られれば、2013年暮れまでに計700万のシリアの人々に食料が提供できるとWFPでは見えています。

WFPによると、修正後の計画では、基礎食料に加えて小麦粉も配給し、家庭でパンを焼くことができるようにすることで、多くの地域での深刻な食料不足解消を図ることになっています。さらに、弱い立場にいる30万人の子どもたちを対象に、ニュートリバター（Nutributter）やプランピードーズ（Plumpy'doz）など、ペースト状でそのまま食べられる栄養補助食品を提供することで、栄養不良の治療と予防も図ります。

国連だより

アカデミック・インパクト

「国連アカデミック・インパクト」に参加する九州大学は2011年11月、「ユヌス&椎木ソーシャル・ビジネス研究センター（SBRC）」を立ち上げ、ソーシャル・ビジネスに関する調査、研究、教育の普及を強化しています。国連広報センターは同大学を訪れ、SBRCを率いる岡田昌治教授【写真右】にお話を伺うと共に、実際にソーシャル・ビジネスを立ち上げた学生グループ取材しました。その取り組みをご紹介します。



国連アカデミック・インパクト参加大学に聞く ～九州大学編～

「使用しなくなったほお紅、ファンデーション、アイシャドウ、といった化粧品が画材へと姿を変え、再利用できます」と楽しそうに循環型社会を語るのはソーシャル・ビジネス「PLUS COSME PROJECT（プラスコスメプロジェクト）」を立ち上げた学生グループの中心人物、坂口翠さんです。

坂口さんたちの調査によると、65%の人は化粧品を全部使用しきれずに捨てており、さらにそのうち21%の人は7割以上中身を残して廃棄しています。「この便利社会において、女性の社会進出の機会が増し、化粧品の活用度が全体的に増えています。特に流行やファッション性のある化粧品の多くは残ったまま捨てられています」と坂口さんは現状に危機感を抱いています。

こうした現状に注目し、PLUS COSME PROJECTでは、使わず残っている化粧品を画溶液と混ぜて絵の具に変えるキットを開発し、売り出す活動を始めました。また、環境教育の一環としてリサイクルに対する関心への喚起を目



使われなくなった化粧品がリサイクル利用され、色鮮やかな画材に生まれ変わる ©九州大学（すべて同）



「PLUS COSME PROJECT」を通して、画材が開発途上国の教材として利用されるだけでなく、先進国においても環境への関心が高まることが期待されている



循環型の社会について考えてもらいたいと話す坂口さん（中央）。福岡のデパートでワークショップを開催

的に、回収した不要な化粧品から画材を作り、アート制作に活用していくワークショップを地元のデパートなどと催しました。「楽しくものづくりを体験しながら、循環型の社会について多くの人に考えてもらいたい」というのが彼女たちの思いです。

坂口さんたちは、このような場で多くの方々との交流を通して、人々の意識の変化に確実な手ごたえを感じています。そして今、彼女たちの思いは、国境を越え、開発途上国の国々にも注がれています。「先進国では、飽きる、似合わない、とって捨てられる様々な化粧品が画材に生まれ変わり、それが開発途上国の教育現場で子どもたちに役立つ商品になっていけば」と、夢はどんどん膨らみます。

社会問題解決にビジネスの手法で取り組む。何より、プロジェクトを進めるにあたり直面する様々な課題にも、知恵を出し合い楽しみながら挑戦する彼女たちの姿に今後の PLUS COSME PROJECT の飛躍を確信しました。



発行：国際連合広報センター

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-70 国連大学本部ビル8階

TEL: 03-5467-4451

FAX: 03-5467-4455

URL: <http://www.unic.or.jp> / E-mail: unic.tokyo@unic.org